

# 令和5年度 なでしこ保育園 取り組むべき重点事項について

評価基準

- A かなりできている      B ほぼできている
- C あまりできていない    D ほとんどできていない

対象者44名(携わっていない項目は未回答あり)

評価項目の数字は人数

番号	重点事項	具体的な取り組み方法	評価				意見・改善策
			A	B	C	D	
1-1	子どもの権利を守る	園や家庭においての子どもの最善の利益を守るための情報や取組を共有するとともに、様々な研修を通して理解を深め、職員全体で対応を考え取り組む。	19	25	0	0	・子どもの最善の利益を守ることを意識しながら保育に努めた。毎月の会議で保育園の取組や連絡等共有ができていた。
1-2	総合的に子どもの発達を促す	日々保育の中で子どもの喜び・葛藤・達成感など心理面での発達を個々に捉えていく。そのうえで、環境構成を基盤とした連続的、系統的な活動を行っていき子どもの発達を促す。	16	28	0	0	・子どもたちが興味関心を持ったことなどを大切に、職員同士で環境構成など工夫できた。環境構成による連続的・系統的な活動への工夫はさらに取り組んでいく。
1-3	「保育の見える化」を推進していく	新型コロナウイルス感染症の指定感染症5類変更に伴い、交流活動等の制限も緩和する。外部との交流や発信を行うため、徐々に保護者や地域の人と交流する機会を増やしていく。 また、ホームページなどを充実させ、情報発信する内容や頻度を増やすことで保護者や地域の方に、子どもたちの成長・育ちや園生活の様子への理解を得る。	9	35	0	0	・地域交流など行っていきたい。 ・未満児と以上児とでは情報発信には少し差があると感じられたため、見直しが必要である。 ・ブログでさらに園生活の様子を発信したり、クラスだよりが「おがスマ」での配信となったことで、カラーで載せやすくなり、情報発信の仕方を工夫することができた。
1-4	特別支援の充実	特別な支援を要する子ども一人一人への理解や関わり方について、研修等を充実させ専門性を高める。また、訪問支援など外部専門家の助言や支援を受け、日々の保育や適切な保護者支援に活かす。	17	25	1	1	・研修に参加はできたが特別支援を要する子どもに対しての技術、知識を今後もなお一層高めていきたい。 ・子育て相談や児童発達支援事業所を通してより良い保育をするためのアドバイスを活かすようにしている。 ・保育研究大会に向け、園全体で対応を考えて取り組んでいけたのではないかな。
1-5	安心・安全な園生活	令和5年4月から施行となる「子どもの安心・安全対策支援パッケージ」の推進により、子どもの所在確認と、送迎用バスへの安全装置の設置が義務化されたことを受け、令和5年度中に安全装置の設置をするとともに、日々の所在確認(記録、確認、報告)を引き続き徹底して行っていく。 新型コロナウイルスなどの感染症対策は、国の方針に沿って、その時々状況に合わせて対応していく。	17	27	0	0	・園外保育等でのバスの利用時、乗降時の人員確認を含め、活動中の所在確認をし安全に努める。 ・登園時間が過ぎて連絡のない園児保護者に対しては、連絡を入れ所在確認を行い安全確認の徹底に継続して努めていく。

## 総合的な評価結果 B

- ・子どもの最善の利益を守るための情報や取組みを職員間で共有したことで、職員が意識して保育を行い、子どもたちの成長にもつながってきている。
- ・特別支援の必要な子どもへの対応では訪問支援を受け、専門家の助言を保育に活かしたり、保護者支援にも活かすことができた。
- ・新型コロナウイルス感染症の指定感染症5類変更とはなったが、自治会の花壇への花植え、地域の夏祭りへの参加等、様子を伺いながら地域交流を行った。今後も継続して身近なところから取り組んでいきたい。

## 学校関係者評価委員会の評価

令和6年3月22日(金)16時からなでしこ保育園 相談室にて、「保護者アンケート」「なでしこ保育園自己評価」の結果について話し合いを持った。

出席者 学校関係者評価委員 2名 なでしこ保育園園長 主幹保育教諭

- ・ 全体に日々の業務・保育が適切になされていることがうかがえる。
- ・ 園としての取組姿勢や、そこまでの環境作りがとても良好であると言える。
- ・ 職員同士の良好な関係性は、必ず保育にプラスになるものであり、今後も期待したい。
- ・ 数少ない意見・改善策については、一つ一つ取りこぼしが無いよう拾い上げ、大切に検討して欲しい。
- ・ 特に、保護者対応(相談や苦情)もしっかりなされているようで安心である。
- ・ 事故は、「その日に限って…」というタイミングで起きるものだと思う。また親の忙しい時によって子の姿に気になる様子が見られるものと思う。
- ・ 子どもたちの行動もよりアクティブになる事が予想される。事故等無いよう職員間の一層の情報の伝え合い、共有が大事になってくると思う。
- ・ 開所時間が長時間であり、職員のシフト制勤務の中で情報の共有は大切。
- ・ 保護者へのお知らせについて様々な意見があると思うが、情報伝達ツールの「おがスマ」の導入はとても良いと思う。
- ・ 「園内(保育室など)の様子が分からない」「どのような環境で過ごしているのか知りたい」などの意見がある。親子行事や日常生活の中でも出来ることを工夫して機会を増やしていければよいのではないかな。
- ・ 送迎時の玄関対応は、保育の面から見た時、子どもの自立につながる良い面(未満児は、玄関では親から離れる際に泣くが、保育室に向かいながら気持ちを切り替える姿、また以上児は所持品の始末・帰りの準備など自立性を促す環境)もある。
- ・ コロナ禍においての対応を精査し、今後開かれた園を目指し、また保護者と職員が繋がり、子どもと一緒に育てていける体制やその環境づくりに努めてほしい。

## 評価を踏まえ今後改善していく点

- ・ 職員一人一人が相手に伝わるような挨拶を行うため「あかるく、いつでも、さきに、つづけよう」のテーマを掲げ取り組んでいく。
- ・ 門扉の開閉の注意喚起を行い安全確保する。
- ・ 水遊びの際の着替え等、プライバシー保護について対応を検討していく。
- ・ 普段から子どもの様子を伝える等しながら、保護者が職員に相談しやすく安心感を感じてもらえるようにしていく。
- ・ 地域交流の捉え方を共通理解し進めていき、保護者にもわかりやすく発信していく。
- ・ 保育参観・クラス懇談会等の進め方について検討をしていく